

- ◆日時：平成26年2月19日（水） 14:00～16:00
- ◆場所：小金井市役所第二庁舎8階802会議室
- ◆出席者：委員 内田雄二、木下美智子、益田智史、林大樹（委員長）、斉藤浩、清水勉（副委員長）、高橋金一、品川純一（長島剛委員代理）、川合修、今井啓一郎、大森康雄
欠席者：森田真希
- ◆事務局：市民部経済課 當麻光弘（経済課長）、田嶋隆行（経済課産業振興係長）
小金井市商工会産業振興プラン推進室 黄金井の里（立川室長・千葉）
：運営事務受託 特定非営利活動法人カッセ KOGANEI（黒崎・木藤、他2名）
- ◆傍聴者：0名

◇ 議事要旨 ◇

1. 委員長挨拶

（資料確認および報告）

事務局より、配布資料についての確認を行うとともに、第1回検討委員会議事概要（案）の取り扱いについて説明した。第1回検討委員会の議事概要（案）内容について、ご意見のある委員は、事務局まで申し出て頂くよう説明した。

また、本委員会に付属する「内部検討グループ」が過日2月6日（木）14:00～16:00、「黄金井の里」会議スペースにて開催され、第2回検討委員会において、現在、中間支援組織とも関わる活動を行っている「黄金井の里」、「小金井市商工会」、「小金井市観光協会」より報告を依頼すること、本グループの名称を「作業グループ」に変更することとした。次回作業グループは、3月10日の14:00～16:00、「黄金井の里」で開催すること、また各委員の自由な参加を求める旨報告した。

2. 議事

（1）市内関係団体の取組に関する報告および意見交換

①黄金井の里（立川室長）

○設立の経緯等について

平成20年3月に改定された「小金井市産業振興プラン」の組織として設立され、事業を推進する組織であるとともに、中間支援組織的な役割が期待された。人員は計3名（2名は市役所から、1名は商工会からの派遣）である。年間予算は850万円であり、市からの補助金が750万円、残りは商工会の負担である。

○現在行っている事業

「小金井市産業振興プラン」に基づく、基盤づくり事業、商業・工業の活性化事業、観光関連事業である。

○課題

組織としての役割を明確化することが課題である。また自主財源の確保、地域の賑わい・

交流拠点としての目標に向けて自立していくことが必要である。

○取り組みたいと考えていても実現できないこと

地域性を活かした産業の育成、地域内経済の循環を図っていきたい。

②小金井市商工会（小林事務局長）

○現在行っている事業

商工会の事業は大きく分けて2つあり、経営改善普及事業（金融の斡旋、税務申告補助、経営の支援等）と、地域活性化事業（商工関係イベント等）である。

○課題

かつては商工会独自で企業に対する利子補給事業に取り組んでいたこともあり、再び復活させたいと考えている。また、金融の保証事業や、以前行っていて今は財源が無いためできなくなっている地域活性化事業の一環であるプレミアム付き商品券の取組などを進めるため、市独自の予算化を望んでいる。

○取り組みたいと考えていても実現できないこと

商工業の景気動向調査事業、政策等に資する意見具申の為の調査である。これらは人員と財源があれば一通りのメニューは実施できる。

③小金井市観光協会（藤田事務局長）

○現在行っている事業

伝統行事の実施（小金井薪能等）、市民によるシェークスピア劇団上演（昨年で47回目を数える）も行われる「お月見の集い」の開催、まち歩き等の観光マップの作成と配布、その他の観光振興事業である。

○課題

他市よりも恵まれている地理条件を生かして産業振興との相乗効果を図ることである。

○取り組みたいと考えていても実現出来ないこと

市内観光案内所を市外の人が一番訪れる場所に設けたい。また、財政体制の拡充、他団体、市外への情報発信、お店の誘致、市内名所旧跡の紹介について隣接市との連携（足りないところを補い合う）、市内観光版の設置、「お月見の集い」の内容の改善（スクリーン設置、望遠鏡の設置）、シェークスピア劇団の他市劇団との共演等である。

④質疑応答

今井委員：3つの団体に4つの同じ質問をさせていただきたい。私は地域の活性化は商店会が中心となっていくべきであるとの思いを持って日々活動をしている。そこで、1点目に地域のイベントを把握しているか。2点目にそのイベントに現地に行って足を運んでいるか。3点目に各商店会にとってお得となるような各種の情報を流しているか。4点目に先日2月11日の東小金井にて、結局は雪のために中止になってしまったがJR主催の「駅からハイキング」のようなイベントがあったこと、その際に何か相乗効果を狙った取組を行おうとしていたかどうか、以上、4点について教えてほしい。

黄金井の里：1点目については各イベントの把握はしている。2点目については市民レポーターの仕組みを生かし、撮影等をお願いしている。3点目の情報発信については黄金井の里のホームページ等を活用しているが、すべての情報を集約、発信するところまで

はできていないという認識である。4点目の駅からハイキングについては情報としては知っていた。

商工会：1点目については商工会報に載せる形をとり、8割から9割は把握しているつもりである。2点目について、イベントには極力足を運ぶようにしている、特に招待状を頂いた案件については、必ず一封を持参して伺っている。3点目は、現在、地元ケーブルテレビのJCOMと打ち合わせ中であり、さらに情報発信力を強化したいと考えている。4点目のイベントへの相乗りは商工会関係のものは新年会等の場で情報提供を行っているほか、駅からハイキングについても役員向け等の情報提供したところである。

観光協会：1点目の市内のイベントについては大体把握しているつもりだが、各町内単位のものまでは把握できていない。2点目については、一緒に活動するところまでできていないがイベントに出向くようにはしている。3点目についてはマンパワーとして追いつかない部分も多い。4点目の駅からハイキングについては、情報としては把握していた。

高橋委員：農業者の団体としては、観光協会とは野菜の販売など協力して取り組んできたこともある。商工会とはこれまであまり一緒になって取り組む機会がなかったと思う。現在、それぞれの組織の活動分野が被っているという印象を持っている。例えばネット上にイベントカレンダーをつくり、市内のイベント情報を集約し、一括管理するなどの工夫をすべきではないか。また合理化できることは合理化し、互いに協力できることは協力する余地があると思われる。

観光協会：活動分野の重なりについては我々自身も認識しているところである。

黄金井の里：そもそも我々は各団体のパイプ役を期待されている。そのための活動にもっと力を入れていきたいと考えている。

内田委員：商工会と観光協会では、取り組みたいけど実現できないことの理由として財政面を挙げているが、今後も補助金を頼りに事業を進めていくのか、それとも自主財源確保を目指すのか、その考え方を伺いたい。

商工会：商工会という組織上、市の補助金が無いとなかなかこういった事業に取り組めないことが実情であると思う。今のところ市に要望はしているが叶ってはいない。こうした事業のために商工会費を値上げするということは難しく、現状、補助金が望めない場合は事業に取り組むことは難しいという認識である。

観光協会：さくらまつり等のイベントにおいて出店者を集め、その出店費を自主財源の中心にしているが、ささやかな自主財源のみでの運営を考えると、イベントそのものの存続について話題が出てくることもある。今後も継続してイベント等を実施していくためにも収益の出る自主事業を考えているところである。なお、観光協会の事務局は2名体制であり、ボランティアも必要である。ノウハウの継承も含めて職員確保も課題である。

木下委員：黄金井の里について、創設当初のねらいなどイメージがあったと思うが、今後の組織のイメージはどんなものか。

黄金井の里：今回の検討委員会の主要な論点そのものであると思われる。「小金井市産業振興プラン」のなかで実行組織が必要とのことから立ち上がった組織として、市内の様々な動きを把握し、つなげていくことが求められている。当初の「小金井市産業振興プラン」で目指していた役割を担っているかと言えば、不十分な点もあることは理解

している。

益田委員：各団体とも事業内容が被っているように思う。一番知りたいことは、何のプロ集団なのかということ、それぞれの団体の専門性とは何か教えてほしい。

商工会：先に述べたように大きく2つである。金融面、税務申告等の経営支援分野、また地域振興分野については観光協会とも重なる面があると思う。

黄金井の里：「小金井市産業振興プラン」の推進役として、日々活動をしているという認識である。

(2) 中間支援組織のイメージ等に関する意見交換

事務局より、中間支援組織のイメージを宿題として各委員に求め、いわゆるSWOT分析の形式(強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリー分類による地域分析)により今回の配布資料をまとめたことを説明した。今後、「強みを活かした機会の活用」、「弱みの強化による機会の活用」、「強みを活かした驚異の克服」、「弱みの強化による驚異の回避」といった内容について検討していくことを踏まえ、まずは委員同士の問題意識の共有化を図りたい。新たに考えられる「強み」「弱み」「機会」「脅威」など、自由にご意見を頂戴したい旨説明した。

高橋委員：緑の多さについて強みとされているが、その質が重要と思われる。玉川上水沿いの桜は危ない状況に入っており、実際生き残りのための伐採等を行っているほか、近隣公園の緑が落ち葉等で近所にも迷惑となっている。あくまでその質が問題である。また、農地の減少も問題であると思う。

大森委員：立場や立位置によって、強みが弱みになることや機会が脅威になることもあると思う。SWOT分析はこうした点も踏まえながら、ポジティブな方向性や戦略を考えていくものである一方で、強みが脅威によって弱みに変わってしまうネガティブな方向性も考えられる。最終的には行政の立場から予算や人の話に収斂されてしまいがちな場合もあるため、今回の検討委員会では、ネガティブな発想を打破していくような視点で考えることも大事であると思う。

清水副委員長：小金井は子育てに非常に良い環境だと思う。知り合いも小金井に移ってきた。その意味でのステイタスは高く、サークル活動等も活発である。また、市内の緑の拠点とそのつながりというか、お店等の存在も含めた線ができること、線の強化を図るべきではないかと思う。購買力の強化については、市外から来る人が市内でお金を使ってくれる構造をつくるのが大切だと考える。そして何よりも小金井で働いてくれる人を増やすこと、つまり事業所を増やすという視点が重要であると思われる。

高橋委員：強みと弱み双方に関係するが、商店会等に留まらず、市民が知りたいと思う様々な情報を集める事務局体制が無いことが一番の弱みであると思う。

林委員長：今のご意見はワンストップポイントのイメージ、弱みを活用した機会への活用ということであろうと思う。

大森委員：情報の集積が課題と思われる。

内田委員：各単一の組織の中では取り組んでいるが、相互のネットワーク付けがされていない、そこが問題だと思われる。こうした点を克服して取り組んでいる他市の事例、費用が安く済み、効率的な事例を可能な範囲で次回までに事務局で調べては貰えないか。(事務局了承)

林委員長：情報の集約・発信機能がうまくいっている事例を発掘ができるかという点であろう。

地域マーケティングの観点から、あるいは自治体毎に、住民向けのものとして充実しているポータルサイト、ロコミネットワーク的なものを探すことになるのではないか。

林委員長：最後に各委員の宿題から出された「今後やってみたいこと」について話題を移したい。

事務局より、今後やってみたいこととして、各委員からの意見の例としては、「商店図書館」、「まちゼミ」、「COCOバスの人力車化や馬車化」等のユニークな案が出されたほか、外から人を呼び込めるイベント開催を望む声があったことを説明した。

内田委員：このSWOT分析において、自然環境が豊かである以外に何がイメージできるか。あるべき中間支援組織はこれらの分析における空欄部分（「強みを活かした機会の活用」、「弱みの強化による機会の活用」、「強みを活かした驚異の克服」、「弱みの強化による驚異の回避」）を解決するための組織ではなくて、現状の市民一人ひとりのニーズに合うものを捉えるべきである。例えば、まず黄金井の里がどう見られているかなど、市民のニーズをもう少し広く大きな視点で捉えるべきである。

林委員長：空欄部分を埋めるだけではなくて、小金井市にどういう産業を創っていくかという視点も重要であると思われる。例えば、アニメコンテンツやベンチャー等、小金井には、クリエイティブ産業の芽が多くあると思われる。今回はここまでとしたい。

3 その他

事務局より、事務連絡として、第3回検討委員会を3月27日（木）14:00～16:00（場所未定）、第3回検討委員会のための作業グループを3月10日（月）14:00～16:00（場所未定）、また広く市民から意見を聞き、中間支援組織についてのニーズを聞くためのオープン会議を3月18日（火）19:00～20:00（シャトー小金井2階イベントスペース）に開催することを説明した。

以上